

グループディスカッション ワークシート

グループ名: A

【テーマ】「当事者が安心して生活を送るためのつながりづくり
～「つながる」ために課題となっていることを挙げ、
その具体的な取り組みについて、多様な視点で語り合おう～」

ワーク1: 「つながる」ために課題となっていることを挙げよう。

現在、地域の中でどのような「つながり」があるか。

- ・ 幼いころから市内に住んでいたため地域のつながりが元々あったが、月日を経るうちに知り合いがほとんどいなくなった。普通に暮らしているだけだと孤立していつてしまう。自分からつながりを探したため、現在は地域生活でつながりを感じられるが、個人の特性によっては難しいであろう。様々なイベントや施設はあると思うが、腰が重い人にとってそこへ行くことは厳しい。
- ・ 放デイ事業所では子ども協会と連携を取って、学童の先生や支援者に見に来てもらう取り組みをしている所もある。こういった環境でこういった支援をするのかの参考にしてもらう。障害があるため外に遊びに行けない子ども達のために、桜堤児童館と連携を取って気軽に遊びに行けるようにしている。様々なつながりを作っていこうとしているところ。杉並区へミュージカルを見に遊びに行く活動もしている。
- ・ ゲーム大会のようなイベントをやると、腰が重い方や普段コミュニケーションが苦手な方でも楽しく参加していることがあり、つながりを感じる。

「つながる」ために課題となっているのは、どのようなことか。

- ・ 気軽に行ける場所が少ない。「スロープがあれば」「屋根があれば」といった場所が多いと思う。
- ・ 成人・子供それぞれ別の事業所が支援をしている事業所が多いため、それぞれの連携が取れない場面がある。うまくバトンが渡せるとよいと思う。
- ・ 担当が異動、退職で当事者が一気に不安定になることがある。
- ・ 障害から高齢へ移行の段階で、スピード感のずれがあると、支援に困難さが生じる。つながりを大事に全体で支援をできたらよい。

- ・ 保健所のケースには年齢幅広いが、最近は 10 代後半から 20 代前半の方の措置入院も多く感じる。子供から大人への転換期に支援が途切れてしまっていることが原因の一つなのではないか。
- ・ 断片的な視野では支援が難しくなってきた。各支援機関のネットワークを作るべき。
- ・ 人とつながりたくてもつながり方が分からずネットゲームの世界でつながろうとする人もいる。
- ・ 近所の知り合いがいることを理由に、コミセンなどの施設へ行きたくない、という人もいる。

ワーク 2：具体的な取り組みについて、多様な視点で語り合おう

ワーク 1 を踏まえ、具体的などのような取り組みができるか。

- ・ 同業者で研修を行うなど、つながりを持てると安心感や支援力の向上につながると思う。
- ・ 訪問看護事業所では、子ども家庭支援センターと連携し、学校と本人側とのつながりを作る役割を担うような相談も受けている。年齢で切れないという強みを生かせる。
- ・ 重層的な支援が大切。年齢や分野を超えて、関係機関と連絡を密にとり、連携していくことが必要。